

レジメン名

Ph陰性ALL寛解導入療法

出典 JALSG ALL202

実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

Ph陰性ALL(25歳以上60歳未満)

進行・再発  
補助療法(術前・術後)  
初発  


投与減量の基準

その他			

投与中止の基準

Cr	2.0mg/dL以上		
T-bil	2.0mg/dL以上		
その他			

1クール期間

(次のクールまでの標準期間)

総クール数

1クール

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1, d8等)
ダウノルピシン(ダウノマイシン)	60mg/m <sup>2</sup>	輸液100mL	30分	d1-3
ピンクリスチン(オンコビン)	1.3mg/m <sup>2</sup> (上限2mg)	輸液100mL	30分	d1, 8, 15, 22
シクロホスファミド(エンドキサン)	1200mg/m <sup>2</sup>	輸液500mL	3時間	d1
L-アスパラギナーゼ(ロイナーゼ)	3000KU/m <sup>2</sup>	AQ5mLで溶解 輸液250mLに 希釈	2時間	d9, 11, 13, 16, 18, 20
ブレドニゾン	60mg/m <sup>2</sup>	経口		d1-21、その後漸減
※ロイナーゼ投与時にショックがあらわれるおそれがあるので、皮内反応試験をロイナーゼ投与に先立って実施する。実施方法は以下の通り。 ロイナーゼ5000K.U.を日局注射用水2mLで溶解後、日局生理食塩液にて全量5mLとする。このうち0.1mLを注射筒で分取し、日局生理食塩液で全量1mLとした後、この0.1mLを皮内注射する(投与量:10K.U.)。皮内注射後15~30分間異常がないことを確認する。				

1日投与順 (経時的にプレメタキーション・ホストメタキーション、 溶解液まで含む)
day1 ①グラネセトロン3mgハック(15-30min) ②ダウノマイシン60mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ③オンコビン1.3mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ④エンドキサン1200mg/m <sup>2</sup> +輸液500mL(3hr) ⑤生食50mL(フラッシュ用)
d2, 3 ①グラネセトロン3mgハック(15-30min) ②ダウノマイシン60mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ③生食50mL(フラッシュ用)
d8, 15, 22 ①生食50mL(ルート確保用) ②オンコビン1.3mg/m <sup>2</sup> +輸液100mL(30min) ③生食50mL(フラッシュ用)
d9, 11, 13, 16, 18, 20 ①生食50mL(ルート確保用) ②ロイナーゼ3000KU/m <sup>2</sup> +注射用水5mL+輸液250mL(2hr) ③生食50mL(フラッシュ用)
d1-21 ①ブレドニン60mg/m <sup>2</sup> 内服